

平成26年度事業報告

<要 旨>

昭和38年6月に「小さな親切」運動がスタートして52年目を迎え、6代目の代表に鈴木恒夫氏が就任した。毎日新聞記者として1年目に新潟支局に赴任し、「小さな親切」運動誕生を記事に書いた経験から、衆議院議員となっても運動を支援。平成20年には文部科学大臣に就任。その後、議員を辞職し、平成22年からは運動本部の理事に就任し現在に至る。

鈴木代表は就任と同時に各地を回り運動関係者と面談するほか、講演を行い運動の普及拡大に力を注ぎ、新生「小さな親切」運動の第一歩をしるした。

平成26年度は、事業計画に記載した「運動方針」と「重点活動」に則して事業を実施。その活動概況を報告する。

1. 平成26年度の運動方針

「時代ニーズへの対応 ―新たなる種まき―

これまでの親切運動を継承しつつ、その成果を分析して取捨選択を行うと同時に、現代に受け入れられる形を模索することをスタート。51年目の新たな挑戦の年となった。

2. 平成26年度重点活動

1) みんなつながる、トモダチ作戦

◇これまで学校を核に「あいさつ運動」、これを受け継ぐ『『小さな親切』運動実践協力校事業』を行ってきた。これらの事業は終了したが、継続を望む学校、また地域全体での実施を希望する地域組織が多かったことから、学校はもちろん地域や企業等も対象として、コミュニケーションに一番大切な“言葉（特にあいさつ）”に重点をおいた「みんなつながる、トモダチ作戦」をスタート。

◇25年度にあいさつ運動実施状況や希望グッズのアンケート調査を行い、この結果を元に活動用具を作製し配布した。また、27年度に向けての活動調査を行っている。

2) 魔法のことばプロジェクト ／はがきキャンペーン

◇大人向けのエッセイコンテストであるはがきキャンペーンは、その作品が書籍化され収益につながる事業であるが、ここ数年書籍化が実現せず収益につながらなかった。そこで、応募者の拡大と内容の多様化をはかるべく、新たなテーマ「こんなひとはなりたくない」を設けるとともに、地域組織の団体会員を重点に参加を呼びかけた。

3) 広報活動

◇Facebookでのリアルタイムの情報発信、YouTube専用チャンネルでの映像によるニュースの発信を年間を通じて行った。

【事業活動】

公益目的事業 1

〔公1 = 「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養〕

1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

- 平成26年度の実行章贈呈者数（平成27年3月25日発表）は、70,320名で、前年度比5,924名減少。これまでの実行章贈呈者数累計は5,663,208名となった。減少の要因としては、団体の受章者数の減少があげられるが、一方で贈呈団体数は増加しており、地域の少人数のグループの贈呈者は増加した。
- 山陰本部をはじめ新しく結成した千葉県御宿支部、香川県琴平町支部、香川県まんのう町支部からの推薦やホームページを通じての推薦も増えている。
- 拾得物を届け出た小学生を表彰してもらいたい、との落とし主の熱意に応えようと、警察には表彰制度がないことから「小さな親切」運動の実行章を贈ろうと警察官から推薦が届いた。実行章の贈呈は学校で行われ、その模様は教育委員会や県警本部の広報紙で紹介されるなど注目された。今後は、こうした善意を警察の協力を得て表彰していきたい。

2. 第39回「小さな親切」作文コンクール

- 特別テーマ「心に残ったひとこと」を設けたところ、作文を書くことによって他者からの言葉の重みに改めて気づくなど、今までの題材にはなかった広がりが見られた。
- 作文審査は、3段階で実施。第一次審査（審査員：13名 期間：9月29日～10月3日）、第二次審査（審査員：7名 期日：10月18日）、第三次審査＝審査会（審査員：5名 期日：11月4日）。作文コンクールを主催する地域組織の選考を経た作品は、第二次審査からの審査となる。
応募総数は49,291編（内訳：小学生12,331編、中学生36,960編）。
- 中学校の先生を審査員に加え、課題にあげられてきた審査員の層を拡大することで、中学生の心情にそった審査が可能になった。
- 協賛に㈱サクラクレパスが新たに加わり、副賞も提供いただいた。
- 残念ながら、入賞者発表後に二重応募が発覚し、辞退者が出た。また、盗作も増加していることから、入賞決定前の作文のチェック方法が問われた。

〔作文要項〕	後援	内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞社
	協賛	カシオ計算機㈱ ㈱サクラクレパス
	テーマ	「小さな親切」－私のした・うけた・みた・できなかった親切－
	特別テーマ	心に残ったひとこと
	応募資格	小学生・中学生（小中学生と同じ学齢のものを含む）
	応募字数	400字詰原稿用紙3枚（1200字）以内
	入賞者	129名 内閣総理大臣賞1名・文部科学大臣賞1名・運動本部賞1名 特別優秀賞6名・優秀賞20名・入選100名
	副賞	メダル デジカメ、電子手帳、電波時計〔提供：カシオ計算機㈱〕 学年に応じた文房具〔提供：㈱サクラクレパス〕
	要項・入賞発表	毎日新聞／ 5月20日（火） 11月20日（木） 教育新聞／ 6月26日（木） 12月8日（月）
	審査員	5名（内閣府 文部科学省 毎日新聞社ほか）
	締め切り	平成26年9月26日（金）必着
	表彰式	平成26年11月29日（土） 全国表彰式席上

184名（入賞児童生徒 56名・保護者 128名）が出席

〔作製物〕 ポスター 5,700部 要項 8,600部

3. 青少年すこやか育成事業 <（公財）JKA 補助事業>

- 東日本大震災を機に「被災地域向け」と「被災地域外向け」の二つの青少年育成プログラムを用いて活動を展開。
- 東日本大震災から3年を経て、被災地の子どもたちを取り巻く環境も少しずつ変化した。心の痛みをケアする取り組みから、今年度は想像を膨らませ、自分自身を表現する「絵本を作ろう！毛糸で一筆書き」工作教室を開催。世界に一つの自分だけの絵本づくりに没頭する子どもたちの姿に、学校からは子どもたちの新たな一面を発見できたと好評だった。
- 被災地域外向けの活動としては紙芝居授業を開催。これまで紙芝居授業を行ったことのない北海道、秋田県、山口県、香川県で実施できたことの意義は大きい。実施校選定にあたっては、地域組織の協力を得て行った。
- 宮崎県では、近隣の小学校教諭が紙芝居授業を見学した後、全員で意見交換会を開催。道徳教育が今後クローズアップされる中、紙芝居が道徳教育に役立つとの意見を聞くことができた。

1) 被災地域向け

工作教室 in 福島「絵本を作ろう！毛糸で一筆書き」

講師 有賀 忍（板絵画家・江戸川大学子どもコミュニケーション学科客員教授）

平成27年1月15日（木） 福島市立佐原小学校 全校生 31名

16日（金） 福島市立余目小学校 3年生 20名

※福島県本部事務局2名がサポート

2) 被災地域外向け：「つなみのひ」を用いた紙芝居授業の実施

講師 馬場喜久雄（全国小学校道徳教育研究会顧問）

宮島 盛隆（白百合女子大学講師）

実施校 10校（北海道・秋田県・東京都・山口県・香川県・宮崎県）

平成26年 9月 8日（月） 東京都杉並区立井荻小学校 2年生

19日（金） 北海道北見市立常呂小学校 1～3年生

22日（月） 東京都練馬区立中村西小学校 4～5年生

10月 9日（木） 秋田県鹿角市立大湯小学校 1～6年生

29日（水） 東京都江東区立第二辰巳小学校 2年生

11月20日（木） 宮崎県都城市立東小学校 2年生

※終了後、教員との意見交換会を実施

12月 5日（金） 東京都杉並区立馬橋小学校 2年生

平成27年 1月23日（金） 香川県高松市立高松第一小学校 6年生

2月 3日（火） 東京都町田市立町田第一小学校 3年生

2月27日（金） 山口県大島郡周防大島町立久賀小学校 3～6年生

〃 山口県大島郡周防大島町立城山小学校 1～6年生

3) 専用サイトを活用した教育活動

実際に行った工作教室や紙芝居授業の様子を紹介。ページのデザインも、より子どもたちにも興味を持ってもらえるようなものに変更した。

子どもたちには絵本作りの楽しさを感じ、作ってみようと思わせるような内容にするのと同時に、大人（教員や保護者）には、実際に授業を開催してもらえるよう指導方法や、それぞれがもつ有用性を伝えられるような内容を掲載した。

4. みんなつながろ、トモダチ作戦事業

- 全国の小中学校等や企業ですで行われている「あいさつ運動」に取って代わる事業ではなく、あくまでグッズや情報の提供により、現在の取り組みがより楽しく意義あるものになるよう、ひいてはあいさつや声かけの習慣を自然に身につけてもらえるよう、支援していくことを当面の活動としている。
- あいさつ運動グッズ（のぼり、たすき）を作成し、アンケートにて要望のあった学校を中心とする団体へ提供した。
- 27年度に「みんなつながろ、トモダチ作戦」の活動事例集を提供することを予定していることから当該年度は、すでにグッズを活用してあいさつ運動を行っている全国3箇所の小中学校の活動を取材した。

【あいさつ推進グッズの配布】

実施箇所数	学校 92 校、5 団体、5 地域組織（県本部・支部）	／20 道県で展開
推進グッズ	たすき 2,000 本	
	のぼり 1,000 本	／ポール、スタンド含む（希望に応じて提供）

【実施校調査】

27年度にあいさつ実施事例集を作成するにあたり、あいさつ運動に熱心に取り組む学校から、実施内容、実施体制等についての聞き取り調査を行う。そこで、27年度の本格的調査の前段階として三重県、香川県、鹿児島県の小中学校を訪問した。

平成 27 年 2 月 16 日（月）	香川県三豊市立上高瀬小学校
3 月 2 日（月）	鹿児島県鹿児島市立伊敷中学校
3 月 10 日（火）	三重県松阪市立阿坂小学校

5. ことばの魔法プロジェクト

1) 第30回「小さな親切」はがきキャンペーン

- 平成 26 年度の応募総数は 1,905 編。対象は子どもから大人までであるが、大人向けエッセイコンテストとして定着する一方、応募者の年齢層が高く、リピーターも多いなどの問題を抱え、若年層の応募者拡大が大きなテーマとなった。
- 今年度は初の試みとして「こんなひとにはなりたくない!」との新テーマを設け、公共の場等での他者の行動などを反面教師として、あらためて親切を考えてもらおうと呼びかけた。その結果、例年より応募数が増加。内容的にも広がったが、意図が伝わらずに書かれた作品も多く見受けられたことから、今後はテーマの内容を分かりやすいものにする工夫が求められる。なお、同テーマでは、電車内で見られる思いやりのない姿を綴った作品が審査員特別賞を受賞した。
- 社員教育の一環として取り組んでいる銀行、地域組織を紹介したことで、新規に取り組む地域が増加。総数は昨年度比微増にとどまるが、今後の応募増加につながると期待される。
- 11 月 29 日の表彰式には、27 名（入賞者 16 名・家族 11 名）が出席。

〔はがきキャンペーン要項〕

後 援	日本郵便(株) 読売新聞社
協 賛	(株)河出書房新社
テーマ	1) あなたへありがとう 2) こんなひとにはなりたくない!
入賞者	25 名 大賞 日本郵便賞 1 名・運動本部賞 1 名・読売新聞社賞 1 名 河出書房新社賞 1 名・審査員特別賞 1 名・入選 20 名
副 賞	高級文房具

切手帳〔日本郵便(株)の事業協賛金より〕

図書カード〔提供：読売新聞〕

書籍〔提供：(株)河出書房新社〕

要項・入賞発表 読売新聞／ 7月25日(金) 11月21日(金)

締め切り 平成26年10月3日(金) 当日消印有効

審査員 5名(日本郵便(株) 読売新聞社 (株)河出書房新社ほか)

審査会 平成26年10月28日(火)

表彰式 平成26年11月29日(土) 全国表彰式席上

〔作製物〕 要項 7,000部

2) 一人暮らしのお年寄りへ「お便り便」

- 北九州市本部など特定地域で、一人暮らしのお年寄りに年賀状を書いて送る活動を継続しているが、個人情報保護の問題などにより、自治体の協力を得ることが年々難しくなっているため、他地域に広げることができていない。

3) 記念日に大切な人へ Thanks Letter

- E-mailの発達で簡易的な意思の疎通ができるようになったが、心を文字で伝えるという美風を残すべく、個々の日常生活での心構えを提唱するものであるが、26年度は目立った動きを残せなかった。

6. 平成26年度「小さな親切」運動全国表彰式

- 当該年度は、自らの不登校、引きこもり体験を音楽で伝え、子どもたちに生きる勇気を与えるボランティア活動をしている「JERRYBEANS & yokko」のアトラクションが大きな反響を呼んだ。「みんな一人じゃない」とのメッセージを全身で、手話で伝えた彼らの思いは、会場の心を一つにした。
- 今年度も地域組織の事務局など6名の方々に運営サポートとして協力いただき、多くの受賞者に式典を楽しんでもらうことができた。

〔全国表彰式要項〕

後援 内閣府 文部科学省 NHK

日時 平成26年11月29日(土) 12:30~15:00

会場 東京・霞が関ビル35階 東海大学校友会館

出席者 270名

プログラム 司会 飯田恵一 / (一財)NHK放送研修センター日本語センター
エグゼクティブアナウンサー

主催者あいさつ

代表 鈴木恒夫

来賓あいさつ

内閣府大臣官房総務課管理室室長 相川 哲也

表彰

内閣官房長官賞 5名

森本 弘道 / 広島県本部代表

井川 蒔 / 徳島県池田町支部代表

辻 康彦 / 奈良県生駒支部副代表

矢動丸 俊 / 千葉県本部前実行委員

鎌ヶ谷市「小さな親切」の会前代表

前田 昭 / 福島県本部前実行委員

「小さな親切」運動大賞 1団体

群馬県 「小さな親切」運動富岡支部

「小さな親切」運動賞 4団体・1個人

北海道 「小さな親切」運動函館支部

島根県 松江市立津田小学校

	香川県 「小さな親切」運動高瀬町支部
	鹿児島県 株式会社山形屋
	三重県 北出 正之 / 「小さな親切」運動本部特任推進委員
	第30回はがきキャンペーン
	第39回作文コンクール
入賞作品朗読	内閣総理大臣賞 埼玉県さいたま市立常盤中学校3年 松永大三朗 文部科学大臣賞 徳島県徳島市論田小学校3年 善本 寛子
賛助出演	JERRYBEANS & yokko
閉会あいさつ	顧問 原 禮之助

7. 「小さな親切」誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

- 一般情報誌「小さな親切」誌は年4回の季刊発行（春号5月・夏号8月・秋号10月・新春号1月）。今年度は親切運動の取り組みに役立つ情報を提供しようと、運動にすでに取り組んでいる企業や学校、独自性の強い活動を行っている地域組織を取材して掲載したところ、実は取材を受けて自分たちの活動の意義を再認識したとの声が寄せられ、思いがけない効果が生まれた。
- 紙面も漫画を取り入れたり、興味を引くタイトルづくりなど従来の型にはまらない紙面づくりに挑戦した。
- 情報の発信という観点からは、ホームページやFacebookとの連動がうまくいかなかった。次年度は企画会議を行い、それぞれがどのような内容を紹介するかを検討し、積極的な情報発信を心がけたい。

[発行部数] 年間延べ144,000部

[主な取材先]

- ◇春号 5月：生駒支部（奈良県）、公益財団法人東京タクシーセンター、北見市立大正小学校（北海道）、御宿支部（千葉県）
- ◇夏号 8月：京葉ガス株式会社（千葉県）、青森県本部
- ◇秋号 10月：周防大島支部（山口県）、鹿児島市立西陵小学校、ヨシダ印刷株式会社（東京都）十和田支部（青森県）、萩支部（山口県）
- ◇新春号 1月：美保テクノス（鳥取県）、株式会社三栄（島根県）、山陰本部、いすみ市立東海小学校（千葉県）、長崎支部

8. その他

全国組織の育成

- 全国各地で地域に根差した運動を展開している地域組織に、公益目的事業推進のための活動費を6月に交付。交付額は、平成25年度会費収入の12%で、総額は9,184,000円。
- 公益目的事業を強力に推進するために年1回、全国地方本部事務局長会議を開催。次年度の運動方針や重点活動、各事業の展開方法などについて話し合いを行っている。また、この会議は運動本部理事と事務局長の交流の場ともなっている。
 - [日時] 平成27年2月20日（金）13:00～17:30
 - [会場] 東京・ベルサール飯田橋駅前 2階会議室
 - [出席者] 26道府県本部事務局長・事務局次長・事務局担当者27名
運動本部理事・事務局員12名
- 鈴木恒夫理事の6代目代表就任に伴い、各地の総会等のタイミングに合わせて表敬訪問を行うほか、地域組織の周年記念事業では講演を行った。
 - [依頼件数] 1) 講演 5回 2) 総会・つどい等 20回

各種パンフレット、ポスター等の作製

- 鈴木代表の就任にあたり各種資料の改定を行うと同時に、内容を見直し運動に興味をもってもらう事例や参加方法を記載した。今後は、運動のホームページや Youtube へも繋がる工夫をしていきたい。
- 懸案事項としては、バッジの制作費が高騰しており、現状のままでは無料提供が困難となってきた。
 - 1) 基本資料
 - 基本パンフレット 16,600 部
 - 八か条カード（名刺サイズ） 34,000 部
 - 三つ折りパンフレット 5,000 部
 - 新規会員用パンフレット 15,000 部
 - 実行章パンフレット 10,000 部
 - 2) 作品集（第39回作文コンクール・第30回はがきキャンペーン合併版） 4,500 部
 - タイトル 『心に花が咲きました』（作文コンクール・はがきキャンペーン合併号）
 - 発行 平成26年2月16日発行
 - 3) グッズ
 - 蛍光ペン 7,000 本
 - クリアファイル 50,000 部
 - 4) 個人・団体・学校会員証、会員バッジほか

公益目的事業 2

[公2 =高齢者及び障害者の福祉の増進を目的とする事業]

1. 地域の輪・和・環プロジェクト

- 昨年度に引き続き、車椅子利用者の立場に立った介護の仕方や、車いすを使って学びたいとの要望が地域組織に寄せられたことから、病院や福祉施設だけでなく、小学校などへの寄贈が増えた。
〔寄贈台数〕 100 台 89 箇所
- 本事業は公益社団法人移行時には、(公財) JKA の補助事業として補助金を受け、車いすの寄贈と併せて使い方講習会を開催していた。その後、補助金を受けない自主事業となり、予算面から講習会は開催していない。これに対し、公益認定等委員会から事業形態が変わったため、事業そのものの見直しが必要との指摘を受けた。

公益目的事業 3

[公3 =地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業]

1. 日本列島クリーン大作戦 (32 回目)

- 参加者総数は約 340,000 名。河川や海岸、山、観光地、道路などの公共の場所での清掃活動をはじめ、街頭ピーアール、パレードなどキャンペーンが、年間を通じて全国各地で開催された。

〔日本列島クリーン大作戦要項〕

後援 内閣府、文部科学省、農林水産省、国土交通省、経済産業省、総務省、環境省、警察庁

協賛 日本たばこ産業株式会社、スチール缶リサイクル協会、コ・コーラ協会、日本石鹼洗剤工業会
(公社)食品容器環境美化協会、(公財)日本環境協会

スローガン 美しい日本、美しい心

作製物 ポスター 1,200部

- 会員企業の日本たばこ産業(株)が毎年提供してくれているごみ袋は、昨年比 96,000 部減の 250,000 部 (30ℓ袋:100,000 部、12ℓ手提げ袋:150,000 部)。さらに、ごみ袋の発送費も運動本部の自己負担となったことから、近い将来、ごみ袋の提供がなくなることを想定し、各地域で事業を継続する方法を検討することとしたい。
- 一方、日本たばこ産業(株)には全国規模の清掃活動の成果や地方紙による報道状況だけでなく、たばこ関係者の参加状況や協賛に関する告知状況などをデータ化し、ごみ袋を提供するメリットを具体的に報告するようにしていきたい。

2. エコキャップ収集運動 (6年目)

- 収集したエコキャップを回収業者に送る発送費は現在、事業協賛企業である(株)ニヤクコーポレーションに支援してもらっているが、活動の広がりとともに送料も大幅に増加。発送費の支援には限度がある中で、発送費を負担してくれる業者を探したり、直接持ち込んだりするなどの独自の取り組みを行う地域組織が出てきている。
[参加者] 地域組織 21 件、その他 学校、団体会員、個人
[収集量・ワクチン数] 67,164,684 個 155322.9kg ワクチン 78,099 本 (概算)
- 運動本部では「NPO 法人エコキャップ推進協会」(以下、エコ推)の活動を応援してきたが、エコキャップ売却益の用途を巡って、エコ推とワクチン支援団体「認定 NPO 法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV) との間で問題が発生。新聞や TV でも報道され社会問題となっていることから、状況を見定め事業自体の継続を含め検討したい。

3. 日本列島コスモス作戦 (26 回目) <協力: (株)サカタのタネ>

- 当事業は、サカタのタネと購入組織、団体等の仲介という形で活動を支援しているもので、今年度は種子袋 134,500 袋・種子 63.9ℓを幹旋。種子袋や種子は、購入組織、団体を通じて地域の学校等に寄贈され栽培されるほか、親切運動のキャンペーンで配布されるなどピーアールに活用されている。
- 課題としては、請求や入金確認などの事務処理を迅速かつ簡易的にする方法に改善する。

4. 使用済み切手・プリペイドカード・未使用はがき寄贈

- 協力者氏名をホームページに掲載。徐々に協力者が増加している。

協力者 地域組織 11 件・企業 72 社・団体 19 件・学校 2 校・警察署 1 署・個人 26 名・匿名 8 件

地域組織 (県本部・支部)					
山形県	酒田の会	奈良県	奈良県本部	福岡県	北九州市本部
宮城県	宮城県本部	広島県	府中支部	福岡県	行橋支部
静岡県	静岡県本部	山口県	小郡支部	熊本県	熊本県本部
京都府	京都府本部	香川県	香川県本部		
企 業					
北海道	北見信用金庫	鳥取県	宝製菓(株)	島根県	(有)小沢工業
北海道	訓子府石灰工業(株)	鳥取県	富士印刷(有)	岡山県	(有)岡建
北海道	京セラ(株)北海道北見工場	鳥取県	美保テクノス(株)	岡山県	タチバナ工業(株)
北海道	北見石油販売(株)	鳥取県	(有)福井事務機	山口県	キリンビールマーケティング(株)

北海道	三九建設(株)	島根県	(有)松江自動車用品紹介	山口県	北九州銀行
北海道	ドリーム橋梁(株)	島根県	出雲ガス(株)	山口県	沖左官工務店
福島県	(株)F R E C T	島根県	出雲木工(株)	山口県	兼安石灰機工(株)
福島県	福島架設機工(株)	島根県	一畑バス(株)	山口県	(株)小早川運送
栃木県	(株)斉藤組	島根県	大畑建設(株)	山口県	国広倉庫運輸(株)
埼玉県	八十二銀行 熊谷支店	島根県	大昌(株)	山口県	興洋建設
千葉県	新日本メンテナンス(株)	島根県	(株)アワヤ	山口県	静峰興産(株)
東京都	三省堂印刷(株)	島根県	(株)今井書店	山口県	東ソー総合サービス(株)
東京都	(株)風技術センター 風工房	島根県	(株)石見銀山生活文化研究所	山口県	東ソー物流(株)
東京都	杉田産業(株)	島根県	(株)コウヒージョン	山口県	原本建設
岐阜県	(株)松永製作所	島根県	(株)後藤建設	山口県	(有)寿司やす
静岡県	浜松ヤナセ(株)	島根県	(株)三栄	山口県	林兼産業(株)
大阪府	北摂総合病院	島根県	(株)三徳興産	山口県	常盤公園管理課
鳥取県	旭ビル管理(株)	島根県	リフォーム専門店パセリ	長崎県	平和建設興業(株)
鳥取県	(株)アルコン	島根県	(株)ジュンテンドー	熊本県	カドリー・ドミニオン
鳥取県	(株)コクヨ MVP	島根県	山陰クボタ水道用材(株)	鹿児島県	サツマ酸素工業(株)
鳥取県	(株)佐伯建設	島根県	山陰ステーション開発(株)	鹿児島県	親和技術コンサルタント(株)
鳥取県	(株)三協商会	島根県	日進建設(有)	鹿児島県	日本アクセス 鹿児島支店
鳥取県	山陰酸素工場(株)	島根県	碧雲慣行(株)	鹿児島県	さつま麺業(株)
鳥取県	ジェイアル西日本商事(株)米子支店	島根県	丸共建材(株)	鹿児島県	日本興亜損害保険(株)鹿児島支店

団 体

北海道	中神土木設計事務所	山口県	やまぎん「小さな親切」の会	鹿児島県	鹿児島市精神衛生ダイケア
北海道	置戸町役場	山口県	新南陽商工会議所	鹿児島県	鹿児島県司法書士会 鹿児島支部
秋田県	鹿角ぶつくかばあ	山口県	新南陽商工会議所女性会	鹿児島県	社会福祉法人松恵会
福島県	自治労福島県職員連合労働組合	山口県	全国農業協同組合連合会山口県本部	鹿児島県	鹿児島県社会福祉会
鳥取県	鳥取県森林組合連合会	山口県	インテリア棟	鹿児島県	社会福祉法人アルテンハイム加世田
島根県	ごうぎん「小さな親切」の会	山口県	魚谷工作所	鹿児島県	鹿児島県庁総務部税務課
島根県	社会福祉法人 つわぶき				

学 校

島根県	島根県立松江清心養護学校	鹿児島県	鹿児島市立東谷山小学校
-----	--------------	------	-------------

警察署

三重県	三重県名張警察署
-----	----------

個人・匿名

北海道1名・岩手県1名・宮城県1名・茨城県1名・埼玉県2名・千葉県6名・東京都2名・神奈川県2名
三重県1名・奈良県1名・広島県1名・山口県1名・福岡県1名・宮崎県1名・鹿児島県4名・匿名8件

公益目的事業 4

[公4 = 国際相互理解と友好の促進事業]

1. 心の国際交流

- 心の国際交流はオーストラリアが世界親切運動 (World kindness Movement) 代表に就任したが、この前後の状況が不透明であるため、前代表・事務局を引き受けていたシンガポールが脱会するなど不協和音が生じた。日本としては静観の立場をとってきたが、公益目的事業の趣旨に照らし合わせ、活動の停滞という状況は好ましくないことから、公益目的事業から一般事業への移行を視野に検討を進めたい。
- シンガポールは世界親切運動を退会したが、古くからの友好国で国をあげての親切運動を展開していることから、アジアの仲間として交流を継続する。

【収益事業】

1. はがきキャンペーン作品の書籍化

- 運動本部の収益事業は、著作権を有するはがきキャンペーン等の作品（「涙が出るほどいい話」等単行本・河出書房新社発行）の書籍化だが、ここ数年実現できなかった。原因としては、応募者の高齢化、応募作品の内容の固定化等が考えられ、新たな読者をひきつける要素に欠けたことにある。
- 今年度は応募作品の内容拡大を目指し従来のテーマ「心から伝えたい、ありがとう」に加えて、新テーマに「こんなひとにはなりたくない！」を設けたが、テーマ自体が認知されず応募数は伸びなかったことから、今後は新テーマの周知徹底を図るとともに、平成 24 年度、25 年度、26 年度分の作品ストックがあることから書籍化に向け努力したい。

【その他事業】

1. 総会・役員会

- 26 年 5 月 27 日（木）、第 4 回社員総会を東京・ベルサール飯田橋駅前 2 階会議室にて開催。
- 理事会は 5 回開催。第 17 回理事会／5 月 8 日、第 18 回理事会／5 月 29 日、第 19 回理事会／9 月 12 日、第 20 回理事会／平成 27 年 2 月 4 日、第 21 回理事会／3 月 9 日
なお、第 18 回理事会では田中義具代表の退任に伴い、鈴木恒夫理事が 6 代目代表に就任。
- 理事会内に「法人会員問題検討委員会」を設置し、定款変更を視野に協議を重ねた。委員は 5 名（鈴木代表、堀江副代表、山橋専務理事、稲見理事、灰原監事）。委員会は 5 回開催。第 1 回委員会／8 月 20 日、第 2 回委員会／10 月 8 日、第 3 回委員会／11 月 11 日、第 4 回委員会／平成 27 年 1 月 16 日、第 5 回委員会／3 月 2 日

2. 「小さな親切」運動本部特任推進委員の委嘱

- 特任推進委員とは熱心に地域で親切運動を推進している会員に委嘱しているもので、今年度新たに 1 名を加え、特任推進委員の総数は 17 名となった。
新特任推進委員 北出正之 / 前三重県本部事務局長

【 現在特任推進委員 17 名 <敬称略> 】

土館一二三（秋田県）・ 安野 正（山形県）・ 田子育良（福島県）・ 片亀歳晴（群馬県）
新野雄彦（埼玉県）・ 長谷川清一（東京都）・ 馬場喜久雄（東京都）・ 山本勝代（東京都）
見野潤一郎（静岡県）・ 中村尚夫（静岡県）・ 土屋卓也（静岡県）・ 阪口繁昭（和歌山県）
江村良治（広島県）・ 森若祐子（広島県）・ 廣松富夫（福岡県）・ 義間久高（鹿児島県）

【広報活動】

1. WEB サイトによる情報発信

- Youtube に専用チャンネルを新設し、「小さな親切」運動の歴史などの情報を提供するほか、地域組織の活動紹介、新代表就任挨拶や新年挨拶を動画でアップ。また、本部職員が自らの言葉で情報を発信することで、中央本部と地方の距離を近づけた。
- Facebook では職員が出張時やイベントの情報をリアルタイムで発信することで、フォロワーを増やすことができた。
- 今後はより簡単な撮影、編集等、定期的に更新できる体制づくりが必要である。

2. メディアへの情報提供

- 地方での活動（紙芝居授業、ワークショップなど）では、地域組織の協力により、地方紙やローカルテレビに事前に告知してもらうことで、掲載や放映の機会が増えた。
- 次年度以降は、既存事業に新規性を加えたり、切り口を変えて積極的に発信する。

【寄 附】

22 頁に「平成 26 年度寄附金及び事業協賛金一覧」を掲載。
財団法人「小さな親切」運動大阪本部の解散に伴い、残余会費を親切運動に役立ててほしいと 2,762,549 円の寄附が寄せられた。

その他運動概況

会員の概況

会員区分	平成 27 年 3 月 31 日現在		平成 26 年 3 月 31 日現在		昨年度比	
正会員	139 名		138 名		1 名	
法人会員	61 社		63 社		-2 社	
個人会員	9,720 名		9,526 名		194 名	
団体会員	121,894 名		123,994 名		-2,100 名	
学校会員	102 校	60,221 名	101 校	58,971 名	1 校	1,250 名
総会員数	192,035 名		192,692 名		-657 名	